

連合会だより 61号

226 団体
91,850 世帯
町田市原町田 4-9-8
042-722-4262
発行人 高橋 倫正

平成 26 年 11 月 17 日 当連合会主催の市政懇談会が生涯学習センターホールで開催された。

町田市からは石阪市長以下各部の部長及び担当部長など、連合会からは高橋会長及び各地区長、各町内会自治会から 100 名を越える会員が参加した。

第 1 部 連合会からの要望事項に対する市の

回答要旨は次の通り。

1. 防災対策の充実

①避難所となっている小中学校体育館の冷暖房
・天井板や照明器具の落下防止、ガラス類の飛散防止は順次実施中。冷房化は都の補助も無く出来ない。冷房設備のある他の教室を利用して対処してもらいたい。

②防災資機材充実に助成金を

・自主防災隊に対する補助金で賄ってもらいたい。スタンドパイプは 2015 年から補助をするように準備中。消火器の塗り替え、詰め替えは市で応援している。

③土砂災害防止法にもとづく調査の早期完了と警戒区域住民の安全対策

・調査は東京都が進めているためスケジュールは不明。避難情報は従来の行政無線、メール等で、新しい情報伝達手段は考えていない。警戒区域内の避難施設は、土砂災害の場合は避難施設の指定から外している。

④地震、噴火対策

・地域防災計画で決められている通りである。

⑤川崎市との災害時相互援助協定は既に協議中。

⑥境川の治水対策

・根岸橋から鶴瀬橋の間は東京都の所管でほぼ 50mm/h 対応が完了、それ以外の神奈川県所管の区域はまだ 30mm/h のまま。神奈川県に機会あるごとをお願いしている。また、洪水対策として、町田市は貯留設備(調整池)の整備を推進中。

2. 交通対策の充実

①モノレールと小田急の延伸

・モノレール：基盤道路整備が必要。(現在、道路計画が無い区間 2km, 計画はあるが整備未着手区間 2km, 幅幅が必要な区間 2km)「多摩地域都市モノレール等建設促進協議会」などを通して国や東京都に働きかけてゆく。

・小田急の延伸：2027 年完成目標で、相模原市と覚書を締結済み。新駅へのアクセス道路や駅前広場等の計画作成について地元と協議予定。

②交通渋滞対策

・交差点スイスイプランなどにより渋滞個所の改善を進めている。現在 24 交差点のうち 15 ヲ所は完了。現在滝ノ沢交差点近辺の改善を推進中。

③駅にエスカレーター、エレベーターの設置

・バリアフリー基本構想にもとづき実施中。現在多摩境駅にエレベーター設置について推進中。

④米軍機の騒音対策

・防音工事を実施済みの区域もあるが、基本的には市の権限が及ばず、国に対策を要望中。

第 2 部 市政全般について石阪市長から話があつ

た。主な点は

- ・新しい会計制度
- ・東京オリンピックのキャンプ場誘致
- ・資源化設備(ごみ処理設備)の建設
リサイクルセンター建替えについては、建替え自体については地元が受け入れ。現在周辺地域の活性化、まちづくりに関し話し合い中。
- ・待機児童は大幅減。
- ・防犯カメラ：5 年以内に全小学校通学路に設置予定(一校あたり 5 か所)

その他、質疑応答の後、閉会となった。

全体的に見て、各要望がそのまま受け入れられたとは言い難いが、有意義な意見交換会であった。

(編集委員長：高橋清人)



つながりつくる「小山・小山ヶ丘地区交流事業」紹介

小山連合町内会は小山・小山ヶ丘地区の 15 の町内会、自治会で構成されています。この地区は、昔からの町田街道沿いにある街と、新しい多摩境通り沿いの街からなり、近々3 万人を超える見込みの人口急増中の地区です。

所属する各町内会・自治会相互の連携、親睦を図り、良好な地域社会の構築及び維持に資することを目的として、毎年地区交流事業を行っています。地区内の町内会・自治会で力を合わせて交流事業を実施することは、交流の機会が少ない域内を一つにまとめ協力体制を構築できるメリットがあります。今年度も地区内の尾根緑道を使って、「第6回小山連合町内会ふれあいウォーキング」を10月19日（日）に実施し約800人が参加しました。

当日は、秋晴れのなか、受付でマップを受け取り、A 地点（東典礼脇尾根緑道入口）、B 地点（小山内裏公園遣水小山口）の2か所のスタート地点から10時と10時半スタートの2組に分け、2 km先の小山内裏公園のゴールをめざしスタートしました。

参加者は、遠くに丹沢連峰を見ながら、木々の生い茂る尾根緑道を、和気あいあいと歩きました。歩いている内に、各町内会・自治会の知り合い同士が声を掛け合い、グループの人数が徐々に増え、絆がより深まったと思います。

2つのスタート地点からの合流場所では、合流した人々の歓声があがりました。この中間ポイント地点の通過確認スタンプを捺してもらい、ゴールの小山内裏公園に向かってウォーキ



ングを続け、全員無事にゴールインしました。小山内裏公園では、いろいろなイベントが開催されました。健康づくり推進委員の協力による骨密度測定、豆っこ等の健康チェック、体力測定委員による腹筋、反復横跳び、握力測定等の体力測定を実施しました。また、多摩美術大学の学生さんの協力によりライブペインティング（自由にお絵描き）コーナーを設け、大勢の子供達が野外の大きなキャンパスにのびのびとお絵かきをして楽しみました。



また、FC 町田ゼルビアの協力でマスコットのゼルビーくんが登場し、子供達と交流を図り楽しみました。お昼は、おにぎり、お茶、参加賞とトン汁を受け取り、広場の芝生に敷いたブルーシートの各町内会・自治会毎の昼食スペースへと集まりました。昼食スペースでは、町内会・自治会毎に和気あいあいと食事をとりながら親睦を図り、つながりを強めていく様子が伺えました。今回の「ふれあいウォーキング」の実施に向け、準備段階から、小山・小山ヶ丘地区に住む多くの人々が力を合わせ、町内会の枠を超えて結びつくことができました。このように、みんなで力を合わせれば、地域を盛り上げることができるのではないのでしょうか。最後に、小山連合町内会江藤会長は「地区交流事業で生まれたきずなが防災や生活の助け合いにつながります。今後も地区交流事業等で、地域のつながりを深めていきたい」と話していました。

（編集委員 茨木庄吾）